

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471200634
法人名	社会福祉法人 槃特会
事業所名	共生型 グループホーム さくらおか
所在地 (電話番号)	登米市米山町字桜岡大又232-2 (電話) 0220-55-5160
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年7月13日

## 【情報提供票より】(19年 6月27日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	7 人	常勤 4 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	6.8

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有( 円) ○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 300 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり	1,000 円	

### (4) 利用者の概要( 6 月 27日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	0 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.1 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	登米市立よねやま病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

外部研修は昨年だけで34回も受講している。その都度揭示し、希望する人には勤務調整をするなどして受講させている。入居前からのかかりつけ病院を利用している人が6人と多い。病院利用は家族同行が基本となっているが都合で同行できないときは代行している。起床、入浴、食事時間を一人ひとりのペースで行えるよう柔軟に対応している。なかには夜寝る前に入浴を希望する人もいる。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、買い物や散歩などに出かけられるように支援している。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価の要改善は14項目あったが職員全員で検討し、出来るものから改善している。その結果、細かい所まで気付くようになった。「地域とのつきあい」「市町村との関わり」など、今以上に取り組みをお願いしたい項目もあるが、「利用者のペースの尊重」「ホームに閉じこもらない生活の支援」など着実に改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員に自己評価をしてもらい、それを持ち寄って全職員で話し合い、運営推進会議で報告、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>先月(6月19日)の会議が初めての会議であり、事業所側の現状を説明し、委員からの質問に答えている。主な討議内容は、①認知症という病気や症状、認知症ケアの学習や啓発、②さくらおかの暮らしの支援、サービス提供の状況、③入居者や家族との交流、職員や運営面の状況、④地域連携、地域交流の状況、⑤身体拘束、権利擁護、防災などに関する状況、⑥外部評価やグループホームの抱えている課題など。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族が訪問した時や手紙で常に問いかけている。又運営推進会議、苦情受付窓口、意見箱などで何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望は14日以内に解決策を講じるようにしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会、自治会などに加入はしていないが、老人会の総会に出席し、事業所をアピールしている。歌謡ボランティア、舞踊ボランティアなどの受け入れ、地域行事への参加は法人の槃特会を通して参加し、交流を図っている。ホームとして独自に地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいくことを期待したい。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	社会福祉法人槃特会の経営理念にも「地域との連携」を謳っていて、開設当初、事業独自の理念としてスタッフ全員で話し合い作成したもので、運営規程第16条に「地域との連携」があるが、充分とはいえない。	○	地域密着型サービスの意義を考え「地域生活の継続」と「地域との関係性強化」等を謳った理念とするようお願いしたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	申し送りノート、月1回の職員会議などで理念に触れ確認し合っている。又言葉かけ、態度、記録など日々のサービス提供場面において理念が実践の中に活かされ、入居者主体の体制が出来上がりつつある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会、自治会などに加入はしていないが、老人会の総会に出席し、事業所をアピールしている。歌謡ボランティア、舞踊ボランティアなどの受け入れ、地域行事への参加は法人の槃特会を通して参加し、交流を図っている。	○	ホームとして独自に地元の活動や地域住民との交流に積極的に取り組んでいくことを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価について、職員全員に回覧し、自分で出来ることについてそれぞれ報告してもらい、それらを持ち寄って検討し、出来るものから取りかかっている。結果、細かい所にも気付くようになった。今後は改善計画シートに記録し、その経過と結果を記入するようお願いしたい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	先月(6月19日)の会議が初めての会議であり、事業所側の現状を説明し、委員からの質問に答える程度で終わっている。今後回を重ねることでサービスの向上に活かされていくことを期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型サービス事業として、市の担当者に相談をしているが、ホームを理解してもらうような積極的な働きかけはしていない。	○	市の担当者に対し、事業者側から積極的に情報を提供し、また市から協力を得られるように働きかけることを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、普段の生活の場面の写真や行事の際のビデオ、ケース記録を見ていただいている。又金銭管理については、毎月請求書を送る際、小遣いの出納帳のコピーや領収書を送っている。又来訪するのが困難な家族に対しては、月一回手紙や電話で状況を伝えている。また「たより」は発行の都度(3ヶ月に1度)送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問した時や手紙で常に問いかけている。又、運営推進会議、苦情受付窓口、意見箱などで何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望は14日以内に解決策を講じるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人に対し異動をしないように働きかけており、開設以来これまで異動や離職はない。基本的には職員を固定化し、顔なじみの職員によるケアを心がけている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は昨年1年間で34回受講している。その都度掲示し、希望する人に勤務を調整するなどして受講してもらっている。又希望がない場合でもこちらから指名することがある。研修報告は毎月の職員会議で発表してもらい研修報告書を全員が回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮城共生ネットに加入し、事業所ごとに回り番で勉強会をしている。また、全国の同業者ネットワークに加入し、交流をすることにより情報交換、相互評価、勉強会などサービスの質の向上や職員の悩みの共有、ストレスの解消に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に併設の特養のショートを利用していただくことから始め、その間にスタッフが自宅に出向いたりしながら人間関係を築き、ホームでの生活が安定するのを見極めてから安定的な利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有している。職員は入居者から畑づくり、習字、パッチワーク、料理などを教えられながら一緒につくっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情で状況を確認しているが、気づきがあった時はその場にいる職員で話し合いをしている。把握が困難な人の場合、長いスパンで物事を判断し、何処に原因があるか探っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろのかかわりの中で、本人や家族の思いや意見を聞き、反映させるようにしている。職員の意見や気づきも含め職員全員で話し合い、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に一度は介護計画について入居者や家族の意向を確認している。また、状態の変化によって期間前であっても早めに見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて通院や特別な外出、外泊支援など必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ病院を利用している方が多い。基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時には職員が代行している。体調がすぐれない時など主治医からの紹介状をもらって診てもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期を迎えた場合の対応については「いづれ考えないといけない」ということを職員全員で話し合ったことはあるが、本人や家族、かかりつけ医等と話し合ったことがない。	○	終末期を迎えた場合の対応の仕方について、基本的な方針を定め、早い段階から本人や家族、かかりつけ医と話し合い、早急に体制を整えていくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人前であからさまに介護をしたり、誘導の声かけをして、本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝遅く起きてきた人に対しては、起きた時点で食事を取るようになっている。又、入浴について時間は設けていない。一人ひとりのペースで入浴出来るよう柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は入居者の身体状況及び嗜好を考慮して栄養士が作成し、調理や盛り付け、あと片付けは共同で行っている。又職員と入居者が同じテーブルを囲んで和やかな雰囲気できりげないサポートをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日、希望する時間に入浴していただいている。仲の良い友達同士と一緒に入浴することもある。一人ひとりの気持ちや習慣に合わせて楽しんで入浴してもらるようにしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の野菜作りや食事作り、得意の趣味を生かしてパッチワークを作ってもらったり、経験を発揮する場面を作っている。また遠出の外出や地域の行事に参加して気晴らしをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、買い物や美容院、郵便局などに出掛けている。又、天気の良い日は散歩やドライブに出掛けている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者が外出しそうな時は様子でわかるので、止めるのではなく、さりげなく声をかけたり、ついて行ったりしている。又、併設の特養ホーム「さーらの樹」の職員にもお願いしており、歩いているのを見かけた時には連絡をもらっている。安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防団に協力をお願いして「グループホームさくらおか防災計画」により、防災訓練を年4回実施、夜間を想定した避難訓練を入居者も参加し実施している。尚、地域の人も参加しての避難訓練も計画中である。又、地域で行う防災訓練にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別ファイルに食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作りカレンダーと時計、テーブルには季節の花が飾られている。換気が行われ臭気や空気のよどみがない。照明も適当な明るさであり、入居者にとって居心地のよい場所となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家から持ち込まれた家具など少ない人もいるが、写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、入居者にとって居心地のよい居室となっている。		